

# 中長期ロードマップ改訂案について

平成27年6月12日

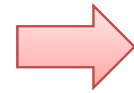
内閣府 廃炉・汚染水対策チーム事務局

# 中長期ロードマップ改訂案のポイント

## 1. リスク低減の重視

スピード重視

汚染水、プール内燃料  
燃料デブリ  
固体廃棄物、水処理二次廃棄物



リスク低減重視

スピードだけでなく、長期的にリスクが確実に下がるよう、優先順位を付けて対応



可及的速やかに対処

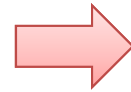


周到的準備の上、安全・確実・慎重に対処



長期的に対処

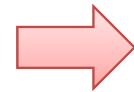
## 2. 目標工程(マイルストーン)の明確化



地元の声に応え、今後数年間の目標を具体化

## 3. 徹底した情報公開を通じた地元との信頼関係の強化等

福島評議会の設置(昨年2月)



コミュニケーションの更なる充実

(廃炉に係る国際フォーラム等)

## 4. 作業員の被ばく線量の更なる低減・労働安全衛生管理体制の強化

## 5. 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(廃炉技術戦略の司令塔)の強化

原賠・廃炉機構の発足(昨年8月)



研究開発の一元的管理・国内外の叡智結集

# 目標工程(マイルストーン)の明確化

■ 大枠の目標(青字)を堅持した上で、優先順位の高い対策について、直近の目標工程(緑字)を明確化

全体	廃止措置終了	30~40年後
<b>汚染水対策</b>	<b>建屋内滞留水の処理完了</b> 〔冷却水以外の建屋内の水や汚染水の増加量をほぼゼロに〕	<b>2020年内</b>
取り除く	敷地境界の追加的な実効線量を1mSv/年未満まで低減〔被ばくリスクの低減目標達成〕	2015年度
近づけない	多核種除去設備処理水の長期的取扱いの決定に向けた準備開始	2016年度上半期
漏らさない	建屋流入量を100m <sup>3</sup> /日未満に抑制〔汚染水増加量の大幅抑制〕	2016年度
滞留水処理	高濃度汚染水を処理した水の貯水は全て溶接型タンクで実施〔タンクからの漏えいリスクの大幅低減〕	2016年度早期
	建屋内滞留水中の放射性物質の量を半減〔建屋からの漏えいリスクの低減〕	2018年度
		新規
<b>燃料取り出し</b>	<b>使用済燃料の処理・保管方法の決定</b>	<b>2020年度頃</b>
	1号機燃料取り出しの開始	2017年度下半期 → 2020年度
	2号機燃料取り出しの開始	2020年度上半期 → 2020年度
	3号機燃料取り出しの開始	2015年度上半期 → 2017年度
	※目標工程の変更要因は、ダストの飛散防止対策、作業員の被ばく線量低減対策等、「安全・安心対策」の実施等によるものが大半。今後、「トラブル」や「判断遅延」に基づく遅れは起こさないように努める旨を明確化。	
<b>燃料デブリ取り出し</b>	<b>号機毎の燃料デブリ取り出し方針の決定</b>	<b>2年後を目途</b>
	初号機の燃料デブリ取り出し方法の確定	2018年度上半期
	初号機の燃料デブリ取り出しの開始	2021年内
<b>廃棄物対策</b>	<b>処理・処分に関する基本的な考え方の取りまとめ</b>	<b>2017年度</b>